

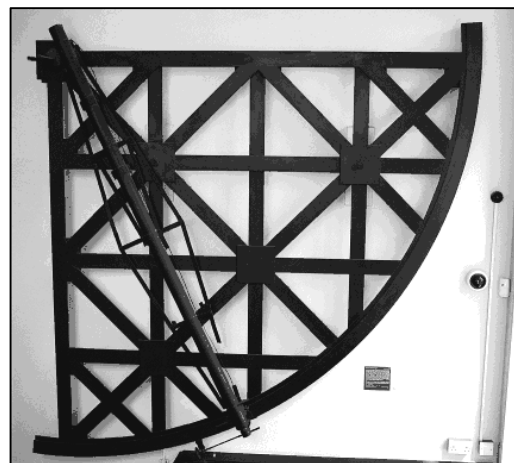
ざりゅうせいぐん
しぶんぎ座流星群

2016 年 12 月

一般には、あまり知られてはいませんが、8月のペルセウス座流星群、12月のふたご座流星群と合わせて三大流星群に数えられる「しぶんぎ座流星群」がお正月明けに見られます。「しぶんぎ座」は北の空に見える「りゅう座」と「うしかい座」の境目に1928年までありましたが、今はりゅう座に統合され、なくなりました。

「しぶんぎ（四分儀）」とは、90°までの角度を測るもので分度器を半分にしたような道具のことです。

星座はなくなりましたが「しぶんぎ座」を中心に流れる流星群の名前は今でも「しぶんぎ座流星群」と呼ばれています。

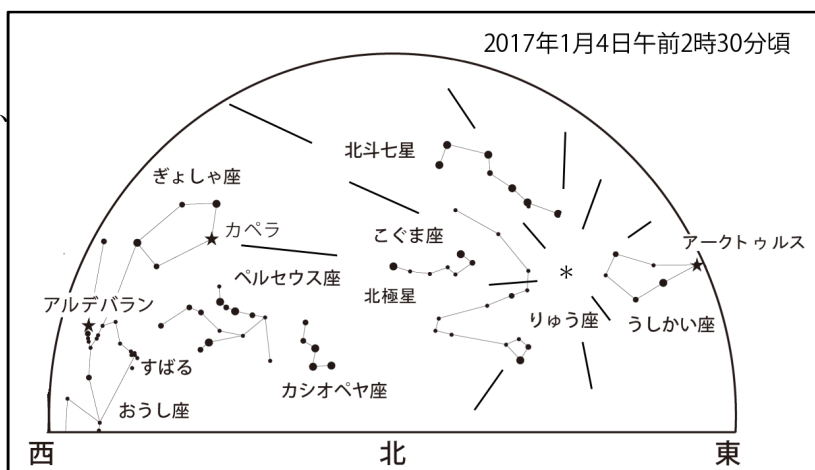


しぶんぎ（四分儀）

この流星群は、空の条件のいい時には1時間に20～30個の流星が見られ、ペルセウス座流星群、ふたご座流星群に匹敵する数の多さです。しかし、5～6時間程度と流れる時間が短い上、冬の真っ盛りでとても寒く、そして、この時期の北陸地方は天候が悪いこともあって、実際に観察することがとても難しい流星群です。

このように、たくさんの流星が流れる割には、あまりなじみのない流星群ですが、2017年はお正月早々の3日の深夜から4日の夜明け前にかけてピークを迎えることが予想され、月明りの影響もない日なので観察する良いチャンスです。

この流星群は、現在の「りゅう座」と「うしかい座」の境界付近を中心として全天に渡って四方八方に流星が流れます。この時間帯では、中心が北東から真北の空にありますので、観察する場合は真北からやや東に向いて、広く全天を観察するのがよいでしょう。



しぶんぎ座流星群の見られる予想図

*印のあたりを中心に流星が流れる

(布村克志)

(補足 ふたご座流星群)

12月には流星群の中でも最も多い流星が見られる「ふたご座流星群」がありますが、今年が一番たくさん流れると思われる13,14日ごろは満月に近い明るい月が1晩中あるため残念ながらはっきりとした流星を見るのはむずかしいでしょう。

右の写真はふたご座流星群の流星

